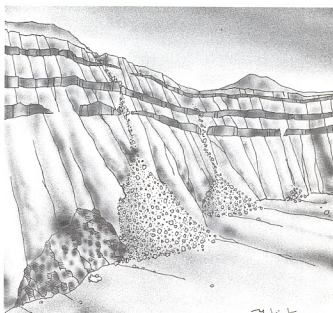


伊豆・小笠原弧 海形カルデラの熱水変質帯

湯浅真人 (海洋地質部)・浦辺徹郎 (鉱床部)・村上文敏 (海洋地質部)
Makoto YUASA Tetsuro URAHE Fumitoshi MURAKAMI

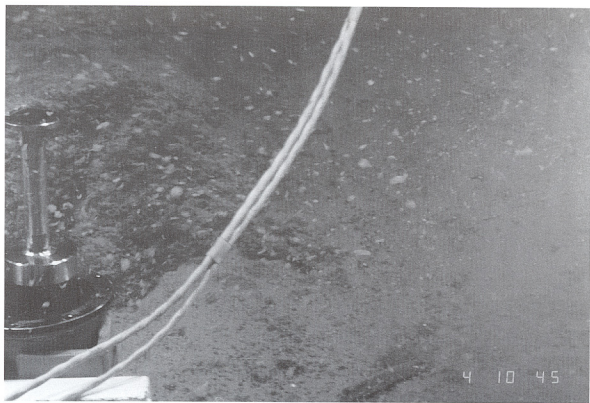
「しんかい2000」により海形カルデラに潜水した。カルデラ内には温泉沈殿物が漂い、カルデラ壁下部で熱水変質帯が確認された。潜水船から眺めたカルデラ内の様子を紹介する。



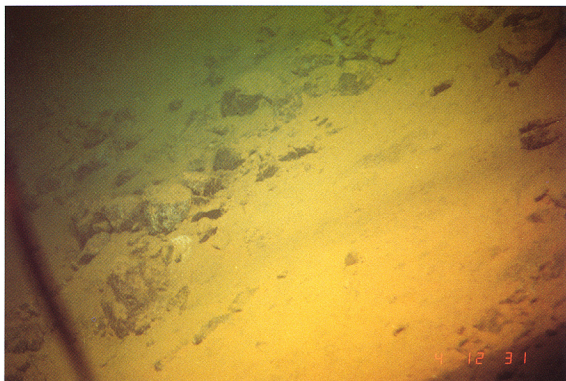
→第1図

海形カルデラ南壁のスケッチ (概念図)。

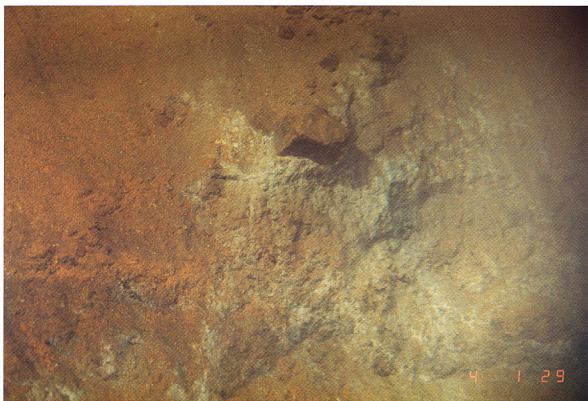
左手前の壁下部に熱水変質帯がある、それより上位の壁には、壁に差走する岩脈が貫入している、熱水変質帯の前に小さな「しんかい2000」がみえる。(イラストは河村幸男氏による)



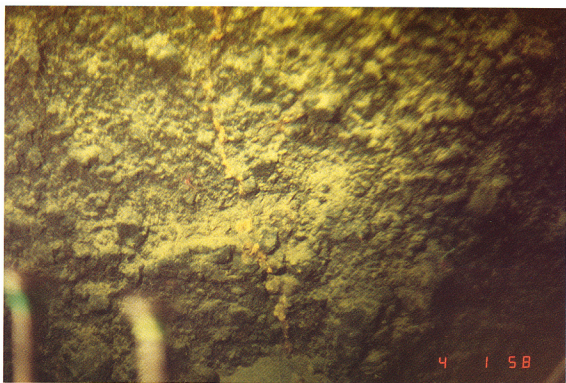
↑写真1 カルデラ床から舞い上った沈殿物。温泉作用に伴う鉄水酸化物と思われる。



↑写真2 熱水変質岩の転石（中央左および中央上方にある白色味を帯びた岩石）。



↑写真3 熱水変質した火山岩の露頭、傾斜の緩いところには褐色の沈着物がかたまっている。



↑写真4 カルデラ壁の火山角礫岩層中に見られる淡褐色の紙状物質。



↑写真5 死魚と活魚、左上方に小さな死魚が横たわっている。中央部左および右上方の海底の暗色部は柱状採泥管をさし込んだ跡、中央に見える活魚はこの採泥跡に来て餌を捜していた。中央部左下に木片らしいものがある。



↑写真6 岩脈の断面に見られる柱状節理。



↑写真7 カルデラ壁から崩れ落ちた崖縁地植物。